

チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名 （注1）	No. -（事務局用）	自治体提示の地域課題名 地域コミュニティにおける課題の設定と解決に向けた協働による新たな取り組み	自治体名 那覇市
チームがつけたアイデア名 （公開）（注2）	ココに居たから助かった！防災に強い商店街ができるまで		

（注1）地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

チーム名 （公開）	なは市民協働大学院 中心市街地チーム		
チーム属性 （公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	1	
メンバー数 （公開）	4 名		
代表者 （公開）	知念 日和		
メンバー （公開）	糸数 貴子、奈良 蓮、館岡 舞		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募内容の公開>

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認 確認後 OK なら右に○印を記入⇒○

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。**2ページ以内**でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題のポイントはこれです！をごく短く以下に書いてください>

<解決したい課題のポイント>

■災害弱者だらけ？

那覇市の中心市街地は、国際通りを中心に昼間だけ働きに来る人たちがたくさんいる。住民ではないので土地勘がなく、ある意味で災害弱者と言える。また、観光客や、買い物客、仕事で訪れるビジネスパーソンなど、昼間の人口のほとんどが住民ではない災害弱者と言える。

■なぜ沖映通り？

沖映通りは、国際通りからモノレール美栄橋駅を通り、そして国道58号線に向かう重要な通りである。戦後の映画全盛期に沖映本館という映画館があったことから沖映通りと呼ばれるようになった。沖映通りに関して言えば、観光客も地元客も通行する通りで通り会（那覇市沖映通り商店街振興組合）の活動も活発である一方、防災については全体での取り組みがほとんどないといった課題がある。

■全国共通なのは？

このままでは実際に災害が起こったとき、居合わせた人全員が災害弱者という状況が考えられる。このことは、もしかしたら全国の商店街、繁華街で共通の課題なのではないか。全国どこでも防災に強い商店街づくりをしなければ、安心して旅行ができない。そして観光立県である沖縄では、みんなで考えなければならない課題である。

<以上の課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてください> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が原点です>

<提案するアイデアの内容>

■何を

「もう災害弱者とは言わせない！お客さまは私たち商店街が守る！」
防災に強い商店街づくり

そのためのモデル事業を沖映通りで実施して、全国の商店街・繁華街にひろげていく。全国どこにいても安心、安全な社会を目指すアイデア。

■誰が？

私たちが中心となり、まずは仲間を募る。そして、那覇市沖映通り商店街振興組合（おきえい通り会）のみなさん、県内大学生、観光業関係者、行政関係者（特に観光課、防災危機管理課、消防署、協働の街推進課など）、都市モノレール株式会社など、その他多くの協力者と共に実施する。



■いつ？

2024年4月より開始

■どこで？

沖映通り

本通りは、書店・楽器店・ホテルなどが建ち並び、国際通りと国道58号線を結ぶ、全長約730mの商店街である。通りの北側にはゆいレール美栄橋駅が立地している。ゆいレール美栄橋駅からの乗降客と、国道58号方面への通行者の流れが特徴としてあり、外国人観光客も多く見られ、58号線周辺にあるホテルへの往復路として通行しているものと見られる。通行量はスターバックス横が平日には約3,700人、休日は約5,000人で、休日には約1.4倍の通行量の増加が見られる（那覇市中心商店街通行量調査報告書参照）

沖映通りを選んだ理由は5つ

- ① 観光客や市外から通勤している従業員など、土地勘に乏しい災害弱者が多い
- ② 川に囲まれ津波災害警戒区域にあるのに垂直避難できる場所が少ない
- ③ 独自の自主防災組織が設立されていないので、独自の避難訓練が行われていない
- ④ 防災拠点となるFM那覇がある
- ⑤ 通り会の活動が盛んなので、協力いただけるのではないかと期待感

特に⑤について、沖映通りでのイベントである「こどもしぐらプリ」や「一箱古本市」に参加して、「私たちも楽しいイベントを行いたい」「子どもたちも楽しめたらいいな」「SDGSの観点もあつたらいいね」と、ワクワクしている。

■どのように？

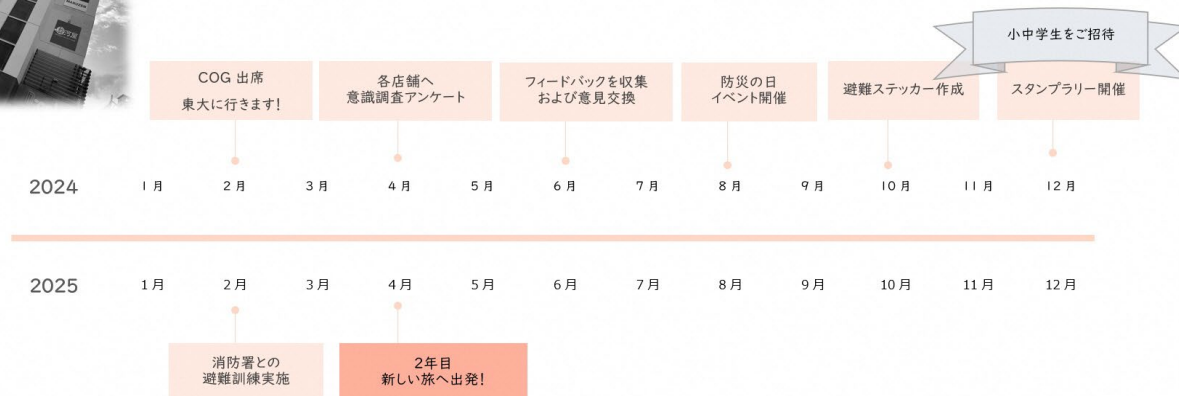
那覇市沖映通り商店街振興組合（沖映通り会）を中心に、経営者や従業員を対象にしているので、業務に支障がないように、無理なく、楽しく、焦らずに、長期計画で防災リサーチ&防災コンテンツづくりを行う。

事業名は「ココに居たから助かった！防災に強い商店街ができるまで」

まずは店舗に防災意識についてのアンケート調査を行い、沖映通りが、防災に強い商店街になるまでの長期計画を実施する。今回は1年目の計画をアイデアとして作成した。



1年間の活動計画



2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

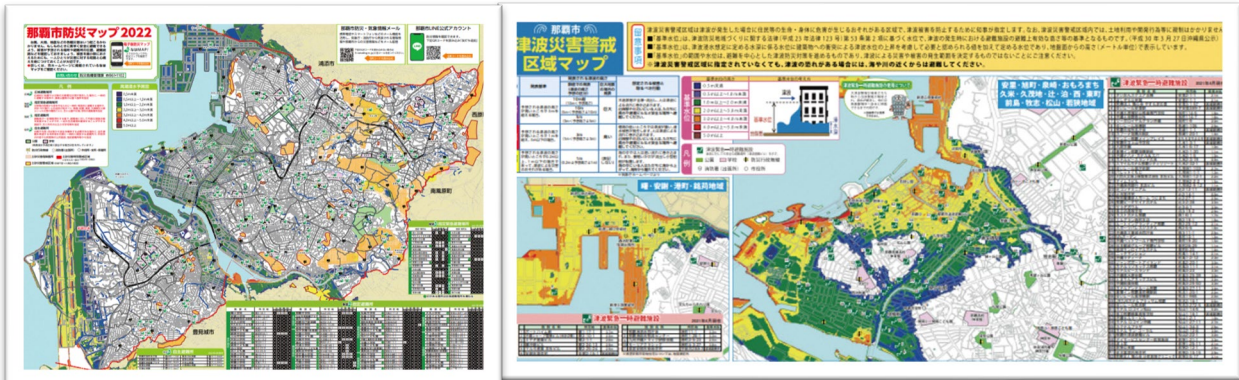
<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

▶基礎データ1：那覇市観光危機管理計画 平成 31（2019）年 3月

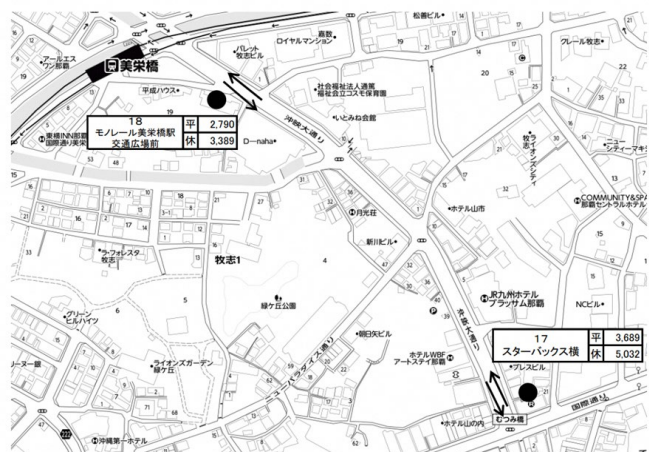
本計画では、観光の危機管理上の課題として、観光形態の多様化、観光客の多様化があげられ「大規模災害等の発生時においては、多言語での観光危機情報の発信、観光客の避難誘導、観光客にも配慮した避難場所の確保、食料・飲料水などの備蓄の強化、救助・救急・医療活動体制、観光危機発生時の所在・安否の確認、帰宅困難者の早期帰宅支援等、観光客にも配慮した対策を実施する必要がある」とされている。そして観光危機として「台風、地震、津波、飛行機・船舶事故、感染症」などがあげられている。

▶基礎データ2：那覇市防災マップ2022・津波災害警戒区域マップ2022



▶基礎データ3：那覇市中心商店街通行量調査報告書（那覇市経済観光部なはまち振興課）

通行量の経年変化を見ると、休日は平成 28 年度以降、通り全体で増加傾向にある。モノレール美栄橋駅交通広場前は平成 28 年度以降ほぼ横ばいで推移している。



基礎データ1～3より、私たちの考察

沖縄においては、観光客の台風被害、台風対策については、万全とは言えないものの整備が進められてきた。しかし、地震、津波対策については、住民感覚として、自分自身を守る知識・情報さえ伝わっていない現状がある。沖縄通りの通行量が増加傾向にあること、津波災害警戒区域であることに鑑み、防災の中でも特に**津波・地震への対策を中心に考える**ことにした。

▶基礎データ4：行政（那覇市防災危機管理課、観光課）へヒアリング

2023年9月20日

Q.被災時、観光客は地域住民と比べて"食糧や衣類等の確保"により苦慮すると予想されるが、どう考えるか。

A.防災は不特定多数の人を対象としていることから観光客に焦点を当てた施策はない。避難所には食糧の他、衣類等も備えられているが津波緊急一時避難施設はあくまで一時的な避難所であることから食糧等の常備はなし。

Q.観光客が迅速かつ正確に避難情報を手に入れるためにはどうすべきか。

A.那覇市公式 LINE から最寄りの避難所や津波避難ビル等が簡単に調べられる。那覇空港やモノレール各駅、ホテルに置かれている沖縄観光コンベンションビューロー作成の「安全安心ガイド」には観光客の安全・安心のための情報や災害時の対応等が掲載されており、OCVB のホームページからは電子版を閲覧することができる。

Q.津波緊急一時避難施設の指定はどのように行われるのか。

A.施設側からの申し出制。標高 11m 以上等の要件を満たしていれば指定し、津波避難ビルステッカーを 1 枚交付する。津波浸水想定マップにも掲載あり。

Q.今回は沖映通りを調査対象としている。ジュンク堂ビルは津波緊急一時避難施設に指定されているか。

A.未指定。なは市民協働大学院の活動により、ジュンク堂ビル（D-naha ビル）が津波緊急一時避難施設として指定を受けてくれるようになったら、市としてこんなにも有り難いことはない。

Q.津波避難ビルステッカーを出入り口に貼るだけでは目立たないため、ビルの壁面等にも貼ってはどうか。

A.ステッカー貼り付けは任意で、景観を保つためステッカーを貼り付けていないビルもある。実際に津波波報が出たら、多くの人は目前にある高層ビルに駆け込むのでは？ステッカーの重要性について今一度考えてみてほしい。

Q.市から見た自主防災組織とその役割

A.自治会に組織設立を促すも消極的な反応を示されがち。その一方、マンション単位の自主防災組織が設立されている地域も存在し、地域差が大きい。活動場面としては、地震や津波等の長期的災害発生時を想定している。行政職員の目が行き届かない場面でリーダーシップを発揮してほしい。たとえば避難所でのルール作り。男性は 1 階トイレ、女性は 2 階トイレを使う等、少しでも快適な避難所生活となるよう力を貸してほしい。避難所設営期間が長くなれば、行政職員は避難所設営業務のみ行うわけではない。自主防災組織はその穴を埋めてくれる貴重な組織。

ヒアリングを終えて私たちの考察（基礎データ1～3も踏まえて）

- 観光客や地元住民以外の災害弱者に特化した防災プランや備えは十分ではないことがわかった。
- 沖映通りは、モノレール美栄橋駅からの観光客や買い物客が多く、土地勘のない災害弱者が多く存在する。
- 川に囲まれ津波災害警戒区域にあるのに津波避難ビルの指定が少なく垂直避難できる場所がない。
- 津波避難ビルのステッカーが小さくて気づきにくいので、大きく目立つものが必要ではないか。
- 沖映通り独自の自主防災組織がない。
- 沖映通り商店街振興組合（おきえい通り会）の活動は活発であるにもかかわらず、防災活動に結びついているわけではない。

2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

▶実現する主体：なは市民協働大学院 中心市街地チーム

▶実現に必要な資源

(ヒト) 沖映通り商店街のみなさん

那覇市沖映通り商店街振興組合（おきえい通り会）

那覇市中心商店街連合会自主防災会

那覇市役所関係課（観光課・防災危機管理課・消防署・協働のまち推進課など）

観光危機管理研究所

津波避難ビル関係者

D-nahaビル関係者（ジUNK堂）

沖縄都市モノレール株式会社

まちぐわー総合案内所

FM なは関係者

沖縄大学

那覇市議会議員

(モノ) 活動場所（D-nahaビル※要調整）、パソコン、アンケート、チラシ、パンフレット、ホームページ
津波避難ビルステッカー、その他必要に応じて調達！

(カネ) ■店舗への意識調査のアンケートについては市議会と沖縄大学の学生に協力してもらう予定。
沖縄大学と那覇市議会は包括連携協定を締結し、市政の課題に関する調査研究等への連携協力を図ることになっている。

■防災情報パンフレットについては、店舗からの広告収入で作る。

■スタンプラリーは、なは市民活動支援事業の助成金を活用する。

■津波避難ビルステッカーデザイン募集は、応募する人からの出品料と広告収入で行う。

■防災トークショーは、参加費と助成金。場所はジUNK堂さんに無償提供してもらう。

■そのほか考え得る限りの資金調達を行う。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

▶実現にいたる時間軸を含むプロセス

2024 年度スタート！

4－5月、各店舗に防災に関する意識調査アンケートを実施して、防災意識の課題を探る。

6－7月、アンケート結果から各店舗と通り会の強み、課題を公表、課題解決に向けた意見交換をかねた親睦会を実施する。那覇市沖映通り商店街振興組合（おきえい通り会）では、毎年従業員も含めた新年会を開催しているそうなので、この機会に防災商店街づくりのため年に2回スパンでみんなが集まる機会を提案しつつ親睦会を実施する。
沖映通りの防災パンフレットを作成しはじめる。

8－9月、D-naha ビルにて防災トークショーを実施。

沖映通りのシンボルともいえるジュンク堂が入っている D-naha ビルで、防災に関する書籍コーナーと連動した防災士によるトークショーを行う。

この機会に D-naha ビルが津波避難ビルに指定されるよう那覇市防災危機管理課と調整実施。

10-11 月、沖映通りの防災パンフレットが仕上がって、各店舗に配布。モノレール美栄橋駅にも設置。

沖映通りオリジナル津波避難ビルステッカーのデザインを一般公募する

12-1 月、沖映通りにて防災イベントを開催

観光客向け／津波避難ビルを巡るスタンプラリー＋観光地巡り（遺跡・歴史）

子ども向け／津波避難ビルを巡るスタンプラリー＋防災関連用品、ステッカー探し

店舗の人たちも福利厚生の一環としてスタンプラリーに参加できるように通り会に依頼する。

店舗従業員が避難所の場所を確認し、自身を守り誘導できるような人財となることを目指す。

2-3月、那覇市消防局と連携した D-naha ビルでの火災訓練をします。防災危機管理課にも来てもらっ

て、訓練に参加した地域住民を対象に、自主防災組織作りの意義とメリットについての説明会をしてもらう。自主防災組織は、住民を対象にしており商店街組織では作れない制度となっている。近隣マンション等で自主防災組織ができることで、地域全体としての防災意識向上を図る。

2025 年度 再スタート

4-5月、各店舗対象に再度アンケート調査を実施し、防災意識への変化、新たな課題を探る。

→その後2年目に突入、さらなるネットワークづくり、防災機運を高めていく。

※2年目が終わるころ、近隣マンションで自主防災組織が設立されはじめ、沖映通りを中心とした自主防災組織の連合体ができている未来を想定！

※3年目が終わるころ「もう災害弱者とは言わせない！お客様は私たち商店街が守る！」と言える沖映通り商店街になる

※10年後 沖映通りモデルを参考にして、全国あちらこちらで防災に強い商店街ができる